

第3回西大路地区バリアフリー移動等円滑化基本構想策定連絡会議

会 議 摘 録

日時：平成29年2月28日（火）

午前10時から午前11時30分

場所：下京区役所 第1・2・3会議室（4階）

1. 開会：京都市都市計画局歩くまち京都推進室長 高畑重勝から挨拶

2. 議事

(1) バリアフリー移動等円滑化基本構想（素案）に対する市民意見について

《資料》 資料1 バリアフリー移動等円滑化基本構想（素案）に対する市民意見について

(2) バリアフリー移動等円滑化基本構想（案）について

《資料》 資料2 桃山地区バリアフリー移動等円滑化基本構想（案）

資料3 桃山地区バリアフリー移動等円滑化基本構想（案） 【概要版】

(3) 道路特定事業計画の方針（案）について

《資料》 資料4 道路特定事業計画の方針（案）

《委員からの御意見（○）及び事務局等からの回答（▲）》

- 前回の連絡会議で、北側に駅舎を整備するとそこに来る車の流れがどうなるのかという意見があったが、その後の検討の状況はどのようになっているのか。
- ▲ 自転車や歩行者を中心とした整備を考えているが、新駅舎の詳細な設計等に合わせて、案内方法も含めた検討を進めていく予定である。
- 南側の駅前について、歩行者の安全性を確保するために、西大路通から駅に入ってくる道路を一方通行にしてはどうかという話がある。
- ▲ 南側の駅前は、タクシーも入っており、西から東に行く車が混雑している。どこまでが駅なのか、どこからが歩道なのか分かりにくい状況である。今回の事業とあわせ、土木事務所や警察とも協議しつつ検討したい。
- 通勤時間帯になると、歩行者や自転車、車が錯綜している。車道外側線を引いてポールを設置すれば物理的に歩車分離が図られ歩道となる。民地を利用して歩行空間を確保した事例もあることから、そのような手法も含めた検討をしていただきたい。一方通行にすると、視距等の安全性の観点からも横断歩道も設置しやすいが、地元住民の同意も必要となる。
- 第1回連絡会議の時から既存駅舎の改善などの話が挙がっているが、全て北側を整備してからやるという回答になっている。早くできることであれば、早急に検討を進めてほしい。
南側に住む高齢者は、わざわざ北側まで回っていく必要があるため、南側は駅舎の利便性を良くしてほしいと切に願う。
- ▲ 北側に駅舎を整備し、利用者を分散することで混雑も緩和され、南側の整備のきっかけとなると考えている。課題も多いが、まずできることを進めることが大事だと考えている。
今回は基本構想であり、来年度以降、道路など特定事業計画の検討を進めることになるので、できる限り早く検討を進めたい。
- 北側に立地する企業の担当者と話をした際に、北側の駅舎からだと道路から階段を上り、改札を通過して階段を上り、階段を下ってホームに行く必要があるため、上下移動が多く、利用する人は少

ないのではないかという意見があった。それぞれの階段に上りエスカレーターを設置するだけでも大きく状況は変わるのではないか。

新駅舎の整備による人の流れの分散化は、南側のバリアフリー化の条件ともなるので、できる限り北側にも人が流れるようにしてほしい。

- ▲ その話は伺っている。朝はホームから階段を下る人で非常に混雑がひどくなっていることもあるため、列車の停止位置を移動するなど、北側を使っていただけるように工夫していきたい。
- エスカレーターとエレベーターは、バリアフリーの枠組みでは同時に整備することはできないが、実際に両方が設置されている駅がある。これはどのような基準で整備されているのか。
- ▲ 特に定量的な基準はないが、大きな駅であれば改修や橋上駅化にあわせて整備をしている。
- せっかく北側を整備しても利用者がいなくては意味がない。様々な取り組みを検討していただきたい。

(4) その他について

《委員からの御意見（○）及び事務局等からの回答（▲）》

- 毎回大きな課題として出てくるが、行政や事業者は基準を満たしていれば良いと考えていても、利用者にとっては不満があったりする。制度の限界もあり、バリアフリー経路を2つ整備することができない。そろそろ国も2つ目のバリアフリー経路の整備について考えていただいても良いと思う。
- 敷地の制約もあって難しい駅であるが、南側の整備要望は強い。基本構想の中に「計画的に検討する」と明記されているので頑張ってください。駅南側の道路については平成32年度以降となっているが、今からでも検討を進めてほしい。駅はそのまの玄関口であるため、素晴らしいものを作ってほしい。
- 多機能トイレについて、寝たきりの成人のお子さんは子ども用のおむつ交換台は利用できないため、大人にも対応したベッドを設置してほしい。ベッドが設置されていないところでは床にビニールを敷いておむつを交換しているそうである。雨の日など床が濡れているときは特に困る。
- ▲ 最近では多機能トイレ内に大人でも使用できる「ユニバーサルベッド」が設置される事例も増えてきている。スペースの問題もあるが、今後も整備を促していきたい。
- 網目の小さいグレーチングについて、掃除をしないとすぐに網目が詰まるため、対応を考えてほしい。
- ▲ 日頃からグレーチングが詰まりやすいという意見はいただいており、網目の上部は細かく下部は大きくなっているものなど、改良したグレーチングを使い始めている。網目が詰まっている場所を見つけた際は、土木事務所に気軽に御連絡いただきたい。また、場所と写真を投稿していただければ市に連絡ができるスマートフォンアプリ「みっけ隊」も活用していただきたい。
- バリアフリー経路の2経路目の話もあったが、「今後検討する」というのは「制度が変わったら検討し整備する」ということなのか、制度に関わらず検討し整備するのか。
また、北側について、JRの管轄内だけエスカレーターを整備しても、道路から駅前までの階段が市の管轄で整備できないなど、一方だけが整備しても意味がない。
- ▲ 基本的にバリアフリーの制度に準じて整備しているが、現時点で制度を活用して2経路目を整備した事例はない。

駅前市、駅舎は JR の管轄となる。駅北側については、西大路通西側からも駅舎にアクセスできるように線路跡を活用した通路を整備するため、北側の利用促進策の 1 つになると考えている。より利用を促すための検討を進めたい。

- 事業者は、バリアフリーの制度を活用すると事業費負担額が 3 分の 1 で整備することができる。独自に整備しようとする、エレベーターは億単位の費用が必要となるため、整備ができないだけでなく、事業費の問題でなかなか整備が難しい。

3. 閉会：京都市都市計画局歩くまち京都推進室土木技術担当部長 西山正志から挨拶

以上